

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	学校法人 専修大学	大学名	専修大学
研究プロジェクト名	古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本プロジェクトの目的は、日本における古代国家形成期を中心に、外来文化の受容に際して、その移植・仲介者となった渡来人集団に焦点を絞り、その<流動と土着>化の歴史的経緯やその意義を明らかにすることである。研究の対象範囲を「東ユーラシア」とし、その地域概念としての有効性を「人流」という視点から検証していく。中国や韓国の研究機関との共同研究・学術交流を積極的に行っていく、これらを通じて国内外の研究者間の学術交流を推進するとともに、古代東ユーラシア研究の拠点形成を目指す。また、若手研究者を育成することも、本プロジェクトの目的の一つである。

具体的な研究テーマとしては、①隋・唐からの来日外国人、②朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究、③ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化、④中世・近世における来日外国人の伝来文化の4つを設定した。

これらの研究を通じて、今日の多極化する国際社会のなかで、さまざまな文化衝突を克服し、深い自己理解とともに正確な他者理解を実現することに寄与する。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

初年度は、古代東ユーラシアの歴史的展開への理解を深めるため、東アジア世界と西北アジア世界などとの関係に関する歴史的な分析、および日本列島における渡来系文化に関するシンポジウムおよび資料調査を行った。具体的には、古代北方ユーラシアにおける人流と情報伝達、および古代日本における渡来人および渡来系文化について、文献史学と考古学からアプローチした。

2年目は、中国大陸や朝鮮半島からの渡来者が日本列島にもたらした政治制度や文化に関するシンポジウムおよび資料調査を行った。具体的には、中央アジアから東アジアにおける民族移動とモンゴル・中国・朝鮮・日本における馬文化の交流関係について検討し、中国や日本の中心と周縁における政治・経済・思想・文化的な相互関係を明らかにすることができた。

3年目は、文化・文物の「移植者」・「媒介者」となった「外国人」の動態の総合的検証と、彼らが列島内に形成したコミュニティに関するシンポジウムを開催するとともに、各研究テーマに基づく資料調査を行った。具体的には、中国・西安出土唐代墓誌の検討から、古代東ユーラシアにおける人の移動と活動内容を明らかにすることができた。また、日本列島の南北における古代～中世の人の移動とアジアとの交流・交易関係についても検討した。

これら3年間の研究を通じて、東ユーラシアという地域概念の有効性について、中心と周縁の重層的構造を「人流」という視点から文献史学・考古学的に検討することによって明らかにできるという見通しを得ることができた。

本プロジェクトの研究成果については、シンポジウムや年報を通じて、研究者だけでなく市民にも広く公開しており、本学の社会貢献の役割を担っている。また、PDおよび大学院博士後期課程の大学院生をRAとして採用することによって、若手研究者の養成にも寄与している。

国内の研究機関はもちろんのこと、中国や韓国の研究機関との学術交流・共同研究も積極的に進めており、古代東ユーラシア研究の拠点としての役割を担うようになってきている。

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

**平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 学校法人 専修大学 2 大学名 専修大学

3 研究組織名 専修大学社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター

4 プロジェクト所在地 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

5 研究プロジェクト名 古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
飯尾 秀幸	文学部教授	教授

8 プロジェクト参加研究者数 24 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
飯尾 秀幸	文学部教授	秦漢時代の中国と「東ユーラシア」世界（理論）	プロジェクト・リーダー
高久 健二	文学部教授	朝鮮半島からの渡来人・帰化人とネットワーク	事務局長
荒木 敏夫	文学部教授	古代中国からの来日外国人（文献）	政治制度分析・周縁国来日外国人分析
土生田 純之	文学部教授	朝鮮半島からの渡来人・帰化人とネットワーク	墓制分析
土屋 昌明	経済学部教授	道教文化と東ユーラシア世界	宗教分析（古代）

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

■研究者の追加

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
-	専修大学文学部・教授	川上 隆志	近世の外交・文化の分析
-	専修大学文学部・教授	田中 正敬	朝鮮半島からの来日外国人と社会
-	専修大学文学部・助教授	西澤 美穂子	近世の来日外国人と日本文化
-	墨田区立すみだ郷土資料館	田中 禎昭	古代の来日外国人と日本文化

(追加の時期:平成 27 年 4 月 1 日)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
-	専修大学文学部・兼任講師	伊集院 葉子	古代中国からの来日外国人(文献)
-	専修大学文学部・兼任講師	福島 大我	秦漢時代の中国と「東ユーラシア」世界(理論)

(追加の時期:平成28年4月1日)

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【研究の目的・意義】

本プロジェクトは、「倭国」から「日本」へと変化する古代国家形成期を中心に、前近代日本の外来文化の受容に際して、その移植・仲介者となった渡来者・渡来者集団に焦点を絞り、その<流動と土着>化の歴史的経緯やその意義を明らかにすることを目的とする。研究の対象範囲を「東アジア」から「東ユーラシア」へと拡大し、東ユーラシア世界の有効性を「人流」という視点から検証していく。

従来、この分野は遣隋使・遣唐使に随行した留学生・留学僧の研究や朝鮮半島からの渡来人の研究に収斂されていた。本プロジェクトでは、1) 中国や朝鮮半島からの渡来者だけでなく、2) 少人数ゆえに従来は等閑視されてきた「靺鞨人」・「崑崙人」・「胡国人」・「林邑人」などにも対象を広げ、こうした人々の人流の動向を東ユーラシアの多面的な歴史展開にも留意して多角的視野から検討をこころみる。3) 当然、彼らが日本列島各地に形成したコミュニティも対象とするとともに、4) こうした移植・媒介された文化がその後の日本文化・社会においてどのように咀嚼・変容され、日本文化の一部となっていったかを検証する。

本プロジェクトは、今日の多極化する国際社会のなかで、さまざまな文化衝突を克服し、深い自己理解とともに正確な他者理解を実現することに寄与するものである。なお、中国や韓国の研究機関との共同研究・学術交流を積極的に行っていくことも本プロジェクトの特徴の一つである。これらを通じて、国内外の研究者間の学術交流を推進するとともに、若手研究者の養成を行い、古代東ユーラシア研究の拠点形成を目指す。

【研究計画の概要】

本プロジェクトは古代東部ユーラシア圏を中心に、文化・文物・情報の「移植者」・「媒介者」として大きな役割を果たした渡来者・渡来者集団に焦点を当て、彼らが日本列島各地に形成したネットワークを含めて、その歴史的役割を明らかにしようとするものである。

5年間の計画では古代を中心に前近代の日本を検討の視野に入れ、さらには、ベトナムや東南アジアなども研究フィールドに取り込み、古代東ユーラシアという地域概念の有効性を検討していく。

本プロジェクトの具体的な研究テーマとしては、①隋・唐からの来日外国人、②朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究、③ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化、④中世・近世における来日外国人の伝来文化の4つを設定した。各テーマについてそれぞれの共同研究者が担当し、研究・分析を進める。

なお、当初提出した計画案では平成26年度に①中国からの渡来者がもたらした政治制度や宗教・学問などの文化の調査研究、平成27年度に②中国や朝鮮半島からの渡来者がもたらした政治制度や宗教などの文化と墓地・墓誌・遺跡などの調査研究、平成28年度に③前近代における文化・文物の「移植者」・「媒介者」となった「外国人」の動態の総合的検証と列島内に形成したコミュニティの文献・考古学からの検討、平成29年度に④ベトナムなど周縁国からの来日外国人の人流の動向や来日事由とその伝来文化の調査研究、平成30年度に⑤渡来者・渡来者集団の<流動と土着>化の歴史的経緯や意義の検証を予定していた。このうち②に関しては、渡来者が日本列島にもたらした政治制度や文化に関する調査研究を優先的に進める必要があることから、中国・西安出土唐代墓誌研究については平成28年度に行うこととした。また、平成29年度には④とともに、前年度に行った③の列島内コミュニティに関して、とくに考古学的視点から検討を行うこととした。

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

(2) 研究組織

本プロジェクトでは、すでに平成19年度～23年度オープン・リサーチ・センター整備事業「古代東アジア世界史と留学生」の際に整備した研究組織を基盤として、これに「東ユーラシア」という地域概念を包括しうるメンバーを新たに加えて、従来の日・中・朝以外の地域を包摂する体制とした。

本プロジェクトでは、その研究・運営のために、本学の機関である「社会知性開発研究センター」のもとに「古代東ユーラシア研究センター」を新たに組織した。古代東ユーラシア研究センターでは「古代東ユーラシア研究センター委員会」を設け、各研究テーマについての計画を策定し、進行状況を検討している。研究代表は、古代東ユーラシア研究センター代表として委員会での議論を主導し、各研究テーマの進捗状況と今後の計画について必要な調整を行うとともに、古代東ユーラシア研究センターの上部機関である社会知性開発研究センターに報告し、承認を得る役割を果たしている。また、各研究テーマのリーダーを中心に「古代東ユーラシア研究センター運営小委員会」ならびに研究代表者の補佐として事務局長を置き、各研究テーマと関連した事務の円滑な進行を期している。

また、研究推進の補助的役割を担うとともに若手研究者を育成するために、PD（ポスト・ドクター）、博士後期課程の大学院生をRA（リサーチ・アシスタント）として採用している。

(3) 研究施設・設備等

【主な研究施設】

社会知性開発研究センター	(生田校舎 3 号館 1 階)	面積： 93 m ²	使用者数： 24 名
古代東ユーラシア研究センター	(生田校舎 3 号館 1 階)	面積： 29 m ²	使用者数： 4 名

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞

【平成 26 年度】

本プロジェクトの初年度である、古代東ユーラシアの歴史的展開への理解を深めるため、東アジア世界と西北アジア世界などとの関係に関する歴史的な分析、および日本列島への渡来者のもたらした政治制度、宗教・学問などの文化に関する調査研究を行うこととした。これに基づいて、11月29日に第1回シンポジウム「古代東ユーラシア地域と朝鮮・日本」を開催^{*1}し、古代東ユーラシア世界における人流の動向について多角的な視野から検討を行った。具体的には、「鮮卑の祖先窟の伝達と突厥の祖先窟の伝承」、「渡来人(帰化人)の東国移配と高麗郡・新羅郡」、「5世紀後半における東国の渡来人」の3報告を行い、これに基づいて集団の始祖の情報伝達のあり方や、渡来人の認定における文献史学と考古学との違いなどについて討論を行った。その結果、古代北方ユーラシアにおける人流と情報伝達、および古代日本における渡来人(帰化人)の問題について、文献史学と考古学の視点からアプローチし、東ユーラシアにおける人流の実態を明らかにすることができた。^{*2}

また、本研究の主たる研究対象の一つである「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を推進するため、12月27日～30日に渡来人の出身地の一つである韓国・百済地域の資料調査を行った。具体的には、百済の仏教遺跡である瑞山・泰安磨崖三尊仏や弥勒寺跡、王宮跡である王宮里遺跡、墳墓である益山双陵・笠店里古墳群などを踏査するとともに、百済関連資料を保管する国立中央博物館、国立全州博物館、忠北大学校博物館などで資料調査を行った。資料調査の結果、中国大陸・朝鮮半島・日本列島における相互交流関係を明らかにするための基礎資料を手に入れることができた。また、忠北大学校人文大学の研究者との意見交換を行い、今後の共同研究の可能性について議論した。^{*3}

本プロジェクトの前身である「古代東アジア世界史と留学生」の研究プロジェクトから作成を継続している「古代東アジア世界史年表」データベース^{*4}について、校訂・補正作業を行った。

若手研究者の育成については、RAとして1名を採用し、資料調査や国内外の研究者との交流などを通じて、研究を進展させる機会を提供した。

なお、シンポジウムの成果、および韓国・三国時代百済関係資料調査報告を『古代東ユーラシア研究センター年報』第1号に掲載^{*5}した。

【平成 27 年度】

前年度の成果を受けて、古代東ユーラシア地域の人流に関する理解を深めるとともに、中国大陸や朝鮮半島からの渡来者が日本列島にもたらした政治制度や文化に関する調査研究をさらに進めることとした。これに基づいて、7月18日に第1回シンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』を開

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

催^{*6}し、中央アジアから日本列島における人とモノの移動について検討した。具体的には、「ユーラシアの民族移動と唐の成立ー近年のソグド関係新史料を踏まえてー」、「日本列島への馬の導入と馬匹生産の展開ー東日本を中心にー」、「古代東ユーラシアの馬文化ーモンゴル・中国・韓国を中心にー」の3本の報告と討論を行い、中央アジアから東アジアにおける民族移動とモンゴル・中国・朝鮮・日本における馬文化の交流関係について把握することができた。^{*7}さらにシンポジウムに関連して、7月16日に東ユーラシアにおける馬具に関する研究会^{*8}を行い、最新の出土資料を知ることができた。

11月7日に第2回シンポジウム「古代東ユーラシアにおける中心と周縁」を開催^{*9}し、東アジアにおける中華と周縁、および日本列島における南北交流について検討を行った。具体的には、「東アジア古代における『中華』と『周縁』についての試論」、「国際交易と列島の北・南」の2本の報告と討論を行い、中国や日本の中心と周縁における政治・経済・思想・文化的な相互関係を明らかにすることができた。

本プロジェクトの主たる研究対象の一つである「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を推進するため、2月4日～6日に、渡来系文物が多く出土し、渡来人集団の居住地の一つと考えられる岡山県および兵庫県¹⁰の資料調査を行った。具体的には、造山古墳、鬼ノ城跡、熊山遺跡、秦麿寺、備中国足守庄荘園関連遺跡、播磨国鶴荘関連遺跡宮山古墳などを踏査し、資料収集を行った。その結果、吉備・播磨地域における渡来人集団の実態および渡来系文化の流入過程を理解することができた。^{*10}資料調査にともなって、2月4日・5日に吉備・播磨地域における渡来文化に関する研究会^{*11}を行い、最新の研究成果を把握することができた。

「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」に関連して、関東地域における渡来系遺跡・遺物」データベース^{*12}の作成を開始した。また、継続事業である「古代東アジア世界史年表」データベース^{*4}についても、その校訂・補正作業を行った。

これらの研究の推進、および補助的役割を担う若手研究者の育成のために、RA3名を新たに採用し、当初の計画通りRA4名の研究支援体制を構築した。

なお、第1回・第2回シンポジウムの成果を『古代東ユーラシア研究センター年報』第2号に掲載^{*13}した。

【平成28年度】

当初の計画通り、前近代における文化・文物の「移植者」・「媒介者」となった「外国人」の動態の総合的検証と列島内に形成したコミュニティに関する文献・考古資料の検討を行うこととした。これに基づいて、7月16日に第1回シンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』と地域社会」を開催^{*14}し、東ユーラシアにおける人の移動と移動先での活動について検討を行った。具体的には、「新出墓誌とその重要性ー大唐西市博物館所蔵墓誌を中心にー」、「唐における高句麗・新羅・百濟人の活動とそれに関する史料」、「新出墓誌から見る入唐西域人の活動」、「古代東アジアにおける政治的流動性と人流」の4本の報告と討論を行った。このシンポジウムにおいて、本プロジェクトの重要課題である中国・西安出土の唐代墓誌を検討し、古代東ユーラシアにおける人の移動と活動内容を具体的に明らかにすることができた。これにあわせて、7月17日には西安市西市出土墓誌に関する研究会を行い^{*15}、中国における最新の墓誌資料を把握することができた。

11月19日に第2回シンポジウム「東ユーラシアにおける移動と定着」を開催^{*16}し、日本列島における人の移動と交流・交易について検討した。具体的には「日本古代のエミシ移配政策とその展開」、「中世国際貿易都市『博多』の調査成果」、「中世初期日本国周縁部における交流の諸相」の3本の報告と討論を行い、日本列島の南北における古代～中世の人の移動とアジアとの交流・交易関係を明らかにすることができた。

本プロジェクトの研究対象に基づいて、古代東ユーラシア研究センター研究員およびPD・RAは兵庫県豊岡市(8月16日～20日)、佐賀県唐津市(11月2日～3日)、韓国晋州市・釜山広域市(8月16日～20日)、中国湖南省(12月26日～30日)、台湾台北市(1月18日～22日)などで資料調査を行い、その研究成果を論文や学会などで発表した。^{*17}

前年度から継続して、「関東地域における渡来系遺跡・遺物」データベース^{*12}の作成、および「古代東アジア世界史年表」データベース^{*4}の校訂・補正作業を行った。あわせて、本研究事業に必要な史料および文献の収集・整理を進めた。また、本年度はPD1名、RA4名の研究支援体制を構築した。

なお、第1回・第2回シンポジウムの成果、および前年度に行った岡山県および兵庫県の資料調査報告・研究会の成果を『古代東ユーラシア研究センター年報』第3号に掲載^{*18}した。

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

＜特に優れた研究成果＞

本プロジェクトにおいては、歴史叙述における東ユーラシアという地域概念を導入することの有効性を検討している。これまでに「人流」という視点から研究を推進するなかで、この有効性を、中心と周縁という重層的、かつ相対的で主体的な関係から捉えるという論点を見出し、これを研究方法の柱とすることが確認されたことは重要な成果の一つとなっている。^{*19} 人が移動し、村落および都市の周縁に定着し、既成の社会（中心）との関係を取り結ぶ。そしてその周縁の、中心との関係はあるいは従属的であり、あるいは支配的であるという経過をたどりながら、より広い地域との間で、すなわち中国大陸、朝鮮半島、日本列島などの内部で、いくつもの新たな中心・周縁関係を構築する。それらの関係の変化が、「人流」の展開する東ユーラシアを範囲として複雑に連動する歴史的諸事象を生起させる。この論点の具体化によって、内陸アジア、東アジア世界史における新たな歴史叙述を行うことが可能となった。平成26年度の韓国調査、平成27年度の岡山・兵庫調査、ならびに同年度開催の第2回シンポジウム以降にその具体化が進められている。

いま一つの成果は、本プロジェクトの前身である「古代東アジア世界史と留学生」の研究プロジェクトからの継続事業である「古代東アジア世界史年表」データベース^{*4}の、継続的な校訂・補正作業であり、これをより完成度の高いものにしてWeb上で公開していることである。

また本プロジェクトでは、研究者だけでなく、市民にも研究成果を広く公開するという目的で、シンポジウムをいずれも一般公開の形式で開催してきた。これまで開催した5回のシンポジウムには延べ921名もの参加者があった。また、本プロジェクトの研究成果を掲載した『古代東ユーラシア研究センター年報』もシンポジウムの参加者に無料配布している。これらは大学の社会貢献という視点から見た場合、大きな成果といえる。

さらに、平成29年4月にRAのうちの1名が博物館の非常勤学芸員に採用されている。また、もう1名は平成29年9月より韓国の大学の博士課程に留学することとなった。またPD1名が歴史学会の全国組織である歴史学研究会委員会委員に選出され、平成29年度6月より就任することになっている。本プロジェクトの目的の一つが若手研究者の養成にあるので、これも大きな成果であるといえる。

＜問題点とその克服方法＞

本プロジェクトのスタート時点では、はたして東ユーラシアという地域概念に有効性があるのか、主たる研究対象としてあげた4テーマをどのように進めていくのか、その方向性にあいまいな部分もあった。しかし、3年間にわたって開催したシンポジウムや研究会を通して、東ユーラシア各地に認められる中心と周縁の重層的構造を「人流」という視点から文献史学・考古学的に検討するという方法論を見出すに至った。これによって、主たる研究テーマについても、ほぼ当初の計画通りに進んでいるといえる。

ただし、主たる研究テーマのうち、ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化に関する研究については、いまだ着手できていない状態である。これについては、平成29年度から本格的に取り組む予定であり、現在、これらをテーマとしたシンポジウムと現地調査を実施するための計画を立案中である。また、朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究について、これまで現地調査等は行ってきたが、シンポジウムは開催してこなかった。これについても平成29年7月に「古墳時代の渡来人－西と東－」というテーマでシンポジウムを開催^{*20}する予定である。

＜研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)＞

本プロジェクトの副次的効果としては、まず、PD・RAとして採用した若手研究者の研究の進展があげられる。PD・RAは本プロジェクトの補助的役割を担うだけでなく、各自の研究テーマに沿った調査研究も行っており、多くの研究業績を発表している。また、シンポジウムなどを通じて、国内外の研究者と交流するなかで、世界史的な視野から自己の研究を相対化する機会を得ている点も特筆される。

また、前述したように、これまで本プロジェクトで開催したシンポジウムには多くの参加者がおり、これらのシンポジウムを通じて、本プロジェクトの研究成果を市民に広く公開できただけでなく、本学の研究ブランドを広報できた点は重要な副次的効果といえる。

なお、本プロジェクトは研究成果の実用化・特許の申請等は当初の目的に含んでいない。

＜今後の研究方針＞

平成29年度は、まず7月にシンポジウム「古墳時代の渡来人－西と東－」を開催^{*20}し、本プロジェクトの研究テーマの一つである朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティに

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

ついて検討する予定である。また、11月にはベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化に関するシンポジウムを開催するとともに、12月にはベトナムの現地調査を計画している。

平成30年度も、シンポジウム・研究会を開催して、残された課題について検討を重ねるとともに、国内外の現地調査を行い、資料収集を行う予定である。これらによって、最終的に「人流」という視点から東ユーラシア世界の有効性を検証していきたい。

なお、これらの成果については『古代東ユーラシア研究センター年報』で公開していく予定である。

また、「古代東アジア世界史年表」データベース^{*4}の校訂・補正作業を継続するとともに、現在作成中である「関東地域における渡来系遺跡・遺物」、ならびに「古代東ユーラシア来日外国人」という2つのデータベースについても公開を目指していく。

<今後期待される研究成果>

1. 渡来人に関するシンポジウムを通じて、日本列島に移住した渡来人集団の実態を検討し、日本列島の国家形成期における渡来人集団の果たした役割を明らかにする。
2. ベトナムに関するシンポジウム・現地調査を通じて、東ユーラシアの周縁における「人流」の実態を解明する。
3. 「古代東アジア世界史年表」データベース^{*4}および「関東地域における渡来系遺跡・遺物」、「古代東ユーラシア来日外国人」データベースを公開することにより、研究の基礎データを提供する。
4. 東ユーラシアにおける中心と周縁の重層的構造を「人流」という視点から文献史学・考古学的に検討することによって、東ユーラシア世界の有効性について、その試案を提示する。

<プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価を含む。)>

【自己評価】

本センターの上部機関である社会知性開発研究センターには「自己点検・評価実施委員会」を設置し、定期的に行う自己点検・自己評価の体制を構築している。

なお、平成26年度には公益財団法人大学基準協会の大学評価(認証評価)を受け、その結果、上記体制ならびに研究成果や取り組み内容を広く一般に報告するなどの活発な活動について高い評価を得た。

【外部評価】

本プロジェクトの研究成果の達成状況・達成度を外部の視点から客観的に評価するため、学外研究者3名(亀田修一/岡山理科大学教授、鈴木靖民/横浜市歴史博物館館長、窪添慶文/お茶の水女子大学名誉教授)からなる第三者評価委員会を設置した。

平成29年1月に行った同委員会では、いずれの委員からも三段階(A~C)中で最高であるA評価を頂いたほか、「シンポジウムは、多くの市民に公開することにより大学として社会貢献を果たし、近年注視される日本の公共考古学、ひいては公共歴史学の一翼を担うことになっている」(鈴木委員)、「研究成果が年報などの形で毎年きちんと公開されていること、特にホームページで詳細きわまりないデータベースが公開されていること」(窪添委員)、「『人流』『流動と土着』をより具体的に提示していただくとともに、総合的にまとめ提示していただければ興味深い成果があがるものと期待している。」(亀田委員)、等の所見をいただいた。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-------------------|---------------|----------------|
| (1) <u>東ユーラシア</u> | (2) <u>人流</u> | (3) <u>渡来人</u> |
| (4) <u>中心と周縁</u> | (5) <u>中国</u> | (6) <u>朝鮮</u> |
| (7) <u>ベトナム</u> | | |

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

＜雑誌論文＞

No.	著者名	論文標題	雑誌名(巻)	発行年	頁	査読
1	飯尾秀幸、佐藤昌平、佐々木満実、椎名一雄、膳智之、多田麻希子、奈良竜一、福島大我、山元貴尚	『嶽麓書院秦簡(参)』訳注(1)	専修史学 59	2015年	pp. 73-132	○
2	飯尾秀幸	戦後日本における中国古代国家史研究をめぐって	専修史学 60	2016年	pp. 39-56	○
*13 *19	飯尾秀幸	古代史研究における東ユーラシア地域論をめぐる試案	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第2号	2016年	pp. 85-90	
4	飯尾秀幸、佐藤昌平、佐々木満実、椎名一雄、膳智之、多田麻希子、奈良竜一、福島大我、山元貴尚	『嶽麓書院秦簡(参)』訳(2)	専修史学 61	2016年	pp. 1-26	○
5	高久健二	新たに報告された楽浪埴室墓に関する考察	東アジア古文化論攷 1	2014年	pp. 225-243	
6	高久健二	朝鮮半島南部地域における板状鉄斧一嶺南地域を中心にー	佐久考古通信 No.113	2014年	pp. 10-12	
7	高久健二	朝鮮三国時代の王墓	アジアの王墓	2014年	pp. 61-81	
*3 *5	高久健二	平成26年度韓国・三国時代百済関係資料調査報告	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第1号	2015年	pp. 85-110	
9	高久健二	新たに報告された楽浪埴室墓と横穴式石室墓に関する考察	専修考古学第15号	2016年	pp. 139-164	
10	高久健二	勒島遺跡の外来系文物からみた対外交流	泗川勒島遺跡発掘30周年記念特別展 国際貿易港勒島と原の辻	2016年	pp. 212-235	

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名(巻)	発行年	頁	査読
	高久健二	竈	季刊 考古学 第137号	2016年	pp. 53-57	
*17	高久健二	東国の古墳と渡来系要素ー北武蔵・埼玉古墳群を中心にー	「韓日交渉の考古学ー三國・古墳時代ー」 研究会 第4回共同研究会 韓日の古墳	2016年	pp. 185-204	
	荒木敏夫	大伴氏の「没落」ー氏族研究の陥穽ー	歴史地理教育 835号	2015年	pp. 89-92	
	荒木敏夫	書評 勝浦令子『孝謙天皇・称徳天皇』	歴史評論 796号	2016年	pp. 64-65	
	荒木敏夫	中世の女帝像ー『我が身にたどる姫君』の女帝の比較分析	専修人文論集 99号	2016年	pp. 1-15	
	川上隆志	出版活動と部落差別ー編集者の経験から	明日を拓く	2014年	pp. 12-27	
	川上隆志	人類史的視野から現代を考え続けた偉大なるフィールドワーカー	部落解放	2015年	pp. 22-31	
	川上隆志	海のアジアと張保臯	はぬるはうす	2016年	pp. 27-31	
	川上隆志	福建の春	まほら	2016年	pp. 38-41	
	土生田純之	大神神社の鳥居と赤玉	大美和 127号	2014年	pp. 10-16	
*2 *5	土生田純之	東国の渡来人ー5世紀後半を中心としてー	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第1号	2015年	pp. 37-49	
	土生田純之	終末期古墳としての壬生車塚古墳	みぶ車塚古墳の時代	2015年	pp. 1-15	
	土生田純之	川崎市蟹ヶ谷古墳群の発掘調査	専修大学人文科学研究センター年報第46号	2016年	pp. 1-20	
	土生田純之	日本における古墳構築技術の土木考古学的研究	専修考古学第15号	2016年	pp. 105-115	

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名(巻)	発行年	頁	査読	
25	土生田純之	東日本の渡来人	季刊考古学 137号	2016年	pp. 71-75		
26	土生田純之	積石塚	季刊考古学 137号	2016年	pp. 63-65		
27	土生田純之	中道古墳群の盛衰—中期における大型古墳の欠如—	古代東国と畿内王権—甲斐中道古墳群の検討から	2014年	pp. 55-62		
28	湯浅治久	書評 村石正行『中世の契約社会と文書』	歴史学研究 936号	2015年	pp. 78-82		
29	湯浅治久	円覚寺領上総国畔蒜庄亀山郷と地域社会	鎌倉 120号	2016年	pp. 1-13		
30	湯浅治久	中近世移行期における社会編成と諸階層	日本史研究 644号	2016年	pp. 3-23		
31	松原朗	書評 金文京『李白—漂泊の詩人 その夢と現実—』	和漢比較文学 52号	2014年	pp. 72-87		
32	松原朗	杜甫の詩に見える「石」—詩的認識における「型」の解体—	植木久行教授退休記念中国詩文論叢 33集	2014年	pp. 147-171	○	
33	松原朗	杜甫とその時代	中国詩文論叢 34集	2015年	pp. 41-71	○	
34	土屋昌明	靈宝經十二部「本文」の文献的問題から道教の文字説へ	洞天福地研究 第5号	2014年	pp. 51-80		
*5	35	土屋昌明	玄宗による創業神話の反復と道教の新羅への伝播	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第1号	2015年	pp. 69-84	
36	土屋昌明	黄泉国と道教の洞天思想	古事記年報 58号	2016年	pp. 1-20		
37	土屋昌明	李白と司馬承禎の洞天思想	洞天福地研究 第6号	2016年	pp. 76-87		
38	土屋昌明	紫柏山と道教	洞天福地研究 第6号	2016年	pp. 88-94		

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名(巻)	発行年	頁	査読
39	志賀美和子	「書評 Gyanendra Pandey, A History of Prejudice: Race, Caste, and Difference in India and the United States」	アジア経済 第5巻第4号	2014年	pp. 117-121	
40	志賀美和子	地域主義政党は中央政府への参加を志向するか—ドラヴィダ主義政党の場合	アジア研究 第62巻第4号	2016年	pp. 39-54	○
41	高島裕之	江戸遺跡における明末以前の中国陶磁—大型製品の受容に関する予察—	貿易陶磁研究 34	2014年	pp. 133-143	
42	高島裕之	日本磁器産業の成立と有田天狗谷古窯の具体像	駒澤考古 40	2015年	pp. 219-236	
43	中島徹也・高島裕之	久米島宇江城・具志川城跡出土貿易陶磁の諸問題	貿易陶磁研究 35	2015年	pp. 91-105	
44	三宅俊彦、清水菜穂、櫻木晋一、森中紘一	ラオス・シェンクワン県における出土銭貨の調査	東南アジア考古学 第35号	2015年	pp. 69-75	
45	皆川雅樹	アクティブラーニング型授業と歴史的思考力の育成—高大連携・接続での汎用的な歴史教育の可能性を考える—	専修大学附属高等学校 紀要 34号	2015年	pp. 11-37	
46	皆川雅樹	遣唐使派遣と「国風文化」—歴史的思考力の育成とアクティブラーニング型授業を意識した授業実践—	歴史地理教育 833号	2015年	pp. 20-27	
47	皆川雅樹	高等学校におけるファシリテーション・チームビルディングを学ぶ授業—高大連携、そして社会・未来への架け橋としての場づくり—	専修大学附属高等学校 紀要 35号	2016年	pp. 47-61	
48	皆川雅樹	「質より量での思考」から始めよう—思考が対話を促し、対話が個の思考を深める—	社会科教育 2016年5月号	2016年	pp. 88-91	
49	皆川雅樹	高校日本史の授業のつくり方—アクティブラーナーの育成を意識した授業デザイン—	『歴史と地理』日本史の研究 254 697号	2016年	pp. 17-23	
50	伊集院葉子、義江明子、ジョン・R・ピジョー	日本令にみるジェンダー：その(3)後宮職員令・下	専大史学 57号	2014年	pp. 1-85	
51	伊集院葉子	古代の女官について	歴史と地理：日本史の研究 249号	2015年	pp. 17-21	

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名(巻)	発行年	頁	査読
52	伊集院葉子	日本古代の女帝と女官	歴史評論 787号	2015年	pp. 6-16	○
53	伊集院葉子、義江明子、ジョーン・R・ピジョー	日本令にみるジェンダー：その(4)Comprehensive Glossary	専修史学 59号	2015年	pp. 1-23	
54	伊集院葉子	「女帝」から古代の日本を考える	歴史地理教育 848号	2016年	pp. 4-11	
55	伊集院葉子	八世紀の五位直叙と女堅	専修史学 62号	2016年	pp33-52	
56	多田麻希子	秦漢時代の簡牘にみえる家族関連簿集成稿(その二)	専修史学 56号	2014年	pp. 22-53	○
57	多田麻希子	中国古代家族史研究の現状と新たな課題	歴史評論 785号	2015年	pp. 5-18	○
58	山田兼一郎	9世紀の古代王権と禁苑－神泉苑の変遷と史的意義－	専修史学 58	2015年	pp. 59-101	○
59	山田兼一郎	「松林倉廩」「松原倉」の再検討－平城京の禁苑とクラについての覚書－	専修史学 59	2015年	pp. 41-72	○
60	山田兼一郎	例会報告要旨「禁苑と唐長安城の治安維持－諸門の出入管理に注目して－」	国史学 219号	2016年	p. 166	
61	奈良竜一	「日書」の性格と郷里社会	専修史学 60	2016年	pp. 5-38	○
62	鈴木広樹	中期古墳における須恵器埋納の意義について～朝鮮半島南部との比較を通して～	専修史学 60	2016年	pp. 100-137	
*7 *13	張允禎(鈴木広樹訳)	古代ユーラシアの馬文化－モンゴル・中国・韓国を中心に－	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第2号	2016年	pp. 59-70	
*10 *18	多田麻希子、山田兼一郎、奈良竜一、鈴木広樹	平成27年度岡山県・兵庫県渡来系関連資料調査報告	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第3号	2017年	pp. 198-217	

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

<図書>

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
1	<u>飯尾秀幸</u> 中国出土資料学会 (編)	「睡虎地 (湖北省)」 『地下からの贈り物 新出土資料が語るいにしへの中国』	東方書店	2014年	368頁 (pp. 252-257)
2	荒木敏夫	『日本の女性天皇』(電子書籍版)	小学館	2014年	260頁
3	荒木敏夫	『古代日本の勝者と敗者』	吉川弘文館	2014年	224頁
4	土生田純之 (編)	『古墳の見方』	ニューサイエンス社	2014年	275頁
5	<u>湯浅治久</u> 中島圭一 (編)	「東国仏教諸派の展開と十四世紀の位相」 『十四世紀の歴史学』	高志書院	2016年	490頁 (pp. 83-108)
6	松原朗 (編)	『漢詩の流儀 —その真髓を味わう—』	大修館書店	2014年	304頁
7	下定雅弘・ <u>松原朗</u> (編)	杜甫全詩訳注 (一)	講談社学術文庫	2016年	905頁
8	下定雅弘・ <u>松原朗</u> (編)	杜甫全詩訳注 (二)	講談社学術文庫	2016年	927頁
9	下定雅弘・ <u>松原朗</u> (編)	杜甫全詩訳注 (三)	講談社学術文庫	2016年	657頁
10	下定雅弘・ <u>松原朗</u> (編)	杜甫全詩訳注 (四)	講談社学術文庫	2016年	1111頁
11	<u>土屋昌明</u> <u>鈴木健郎</u> ・根岸徹郎・ <u>巖基珠</u> (編)	「梁漱溟の東西文化論とデューイおよびラッセル」 『学芸の環流—東-西をめぐる翻訳・映像・思想』	専修大学出版局	2014年	446頁 (pp. 41-72)
12	<u>土屋昌明</u> 小山利彦 (編)	「洞天思想の東アジアへの流伝と平安時代の漢詩文—『本朝文粹』を中心に—」 『王朝文学を彩る軌跡』	武蔵野書院	2014年	408頁 (pp. 371-387)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
13	土屋昌明 廣瀬玲子 (編)	「石について」 『人ならぬもの：鬼・禽 獣・石』	法政大学出版局	2015年	262頁 (pp. 156-236)
14	土屋昌明・ヴァンサンゴー サール (編)	「第一大洞天王屋山の成 立」 『道教の聖地と地方神』	東方書店	2016年	320頁 (pp. 133-159)
15	土屋昌明 志野好伸 (編)	「真人について」 『聖と狂：聖人・真人・狂 者』	法政大学出版局	2016年	270頁 (pp. 146-198)
16	Miwako SHIGA Noboru KARASHIMA (ed.)	“Colonial administration and education policy” A Concise History of South India: Issues and Interpr etations	Oxford University Press	2014年	369頁 (pp. 273-278)
17	Miwako SHIGA Noboru KARASHIMA (ed.)	“Social Movements: The Tamil Renaissance and ne w identities” A Concise History of Sout h India: Issues and Inter pretations	Oxford University Press	2014年	369頁 (pp. 289-293)
18	Miwako SHIGA Noboru KARASHIMA (ed.)	“The Non-Brahmin movemen t” A Concise History of Sout h India: Issues and Inter pretations	Oxford University Press	2014年	369頁 (pp. 302-313)
19	Miwako SHIGA Noboru KARASHIMA (ed.)	“State politics in Tamil Nadu” A Concise History of Sout h India: Issues and Inter pretations	Oxford University Press	2014年	369頁 (pp. 330-338)
20	志賀美和子 石坂晋哉 (編)	「「不可触民」のジレンマ 非バラモン運動における包 摂と排除」 『インドの社会運動と民主 主義—変革を求める人びと』	昭和堂	2015年	336頁 (pp. 61-91)
21	志賀美和子 長崎暢子・堀本武功・近藤 則夫 (編)	「インド社会変動とヒンド ゥー・ナショナリズム」『現代 インド3 深化するデモクラ シー』	東京大学出版会	2015年	337頁 (pp. 189-213)
22	志賀美和子 大学での歴史教育を考える 会 (編)	「視点を変え通説を疑うこ とから始める歴史学—ガン ディーは誰にとって「偉人」 なのか」『わかる・身につく 歴史学の学び方』	大月書店	2016年	221頁 (pp. 20-35)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
23	志賀美和子 大学での歴史教育を考える 会(編)	「読書ノート作成のすすめ」 『わかる・身につく 歴史学 の学び方』	大月書店	2016年	221頁 (pp. 110- 115)
24	高島裕之(編)	『有田・今右衛門窯のしごと 窯業聞き取り調査概要報告』	専修大学陶磁文 化研究室	2014年	24頁
25	高島裕之 佐々木達夫(編)	「日本における高品質磁器 製品の生産と受容の背景」 『中近世陶磁器の考古学1』	雄山閣	2015年	320頁 (47-62頁)
26	高島裕之 佐々木達夫(編)	「元様式青花瓷はいつまで 生産されたか」『中国青花 元青花の研究』	高志書院	2015年	310頁 (135-146頁)
27	高島裕之 佐々木達夫(編)	「日本染付磁器誕生-有田に おける磁器生産專業の道程 -」『中国青花 元青花の研 究』	高志書院	2015年	310頁 (261-276頁)
28	高島裕之(編)	『有田焼のしごとと今右衛門 窯・源右衛門窯 窯業聞き取 り調査報告書』	専修大学陶磁文 化研究室	2016年	125頁
29	西澤美穂子 フレデリック・クレインス (編)	「蒸気船の発達と日蘭関係」 『日蘭関係史をよみとく』下 巻	臨川書店	2015年	253頁 (pp. 81-108)
30	三宅俊彦 白石典之(編)	「出土銭からみたモンゴル 社会」 『チンギス・カンとその時 代』	勉誠出版	2015年	374頁 (pp. 86-102)
31	三宅俊彦 白石典之(編)	「出土銭からみたモンゴル 社会」 『チンギス・カンとその時 代』	勉誠出版	2015年	374頁 (pp. 218-233)
32	三宅俊彦(編著)	『コタン浜出土銭』	淑徳大学人文学 部歴史学科調査 研究報告 第1集	2016年	117頁
33	皆川雅樹	『日本古代王権と唐物交易』	吉川弘文館	2014年	276頁
34	皆川雅樹 樋口州男・村岡薫・ 戸川点・野口華世・田中暁 龍(編)	「『竹取物語』の歴史性—五 人の求婚者と難題の品を中 心に—」 『歴史と文学—文学作品は どこまで史料たりうるか—』	小径社	2014年	256頁 (pp. 29-36)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
35	皆川雅樹 アクティブラーニング実践 プロジェクト (編)	「日本史 思考が対話を促し、対話が個の思考を深める」 『現場ですぐに使えるアクティブラーニング実践』	産業能率大学出版部	2015年	374頁 (pp.166-169)
36	皆川雅樹 大阪大学歴史養育研究会・ 公益財団法人史学会 (編)	「大学付属高等学校における汎用的な歴史教育の実践と課題—高大接続・連携をめざして—」 『史学会125周年リレーシンポジウム2014 1 教育が開く新しい歴史学』	山川出版社	2015年	223頁 (pp.169-186)
37	河添房江・皆川雅樹 (編)	『新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史—』	勉誠出版	2016年	208頁
38	川嶋直・皆川雅樹 (編)	「はじめに」 「KP法とアクティブラーニング—活動あって思考・学びもあり—」 『アクティブラーニングに導くKP法実践—教室で活用できる紙芝居プレゼンテーション法—』	みくに出版	2016年	219頁
39	伊集院葉子	『古代の女性官僚』	吉川弘文館	2014年	246頁
40	伊集院葉子・早川紀代・秋山洋子・金子幸子・宋連玉・井上和枝 (編)	「女帝・女王・女性権力者の存在形態と国家：趣旨説明」 『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』	御茶の水書房	2015年	252頁 (pp.19-20)
41	伊集院葉子	『日本古代女官の研究』	吉川弘文館	2016年	342頁
42	伊集院葉子 服藤早苗 (編)	『古今集』の作者名表記と女官・女房 『平安朝の女性と政治文化』	明石書店	2017年	306頁 (pp.33-52)
43	多田麻希子 東洋文庫中国古代地域史研究 (編)	「家罪」および「公室告」「非公室告」に関する一考察 『張家山漢簡『二年律令』の研究』	東洋文庫	2014年	520頁 (pp.331-364)
44	多田麻希子 東洋文庫中国古代地域史研究 (編)	「家罪」および「公室告」「非公室告」に関する一考察 『張家山漢簡『二年律令』の研究』	東洋文庫	2014年	520頁 (pp.331-364)

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

<学会発表>

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地	
1	川上隆志	現代日本の出版文化と雑誌編集の実践	豪州日本学会	2014年	シドニー工科大学	
2	川上隆志	出版メディアにおける差別表現と表現の自由	豪州日本学会	2015年	ラ・トローブ大学	
3	川上隆志	雑誌編集から学ぶ日本語日本文化の現在	CAJLE2015年次大会	2015年	サイモンフレーザー大学	
4	川上隆志	出版文化の危機と学生編集雑誌の可能性	BALI ICJLE 2016	2016年	インドネシア、バリ島	
5	土生田純之	水利・土木考古学の現状と課題	日本における古墳構築技術の土木考古学的研究	2014年	韓民国昌原市	
*2 *5	6	土生田純之	5世紀後半における東国の渡来人	平成26年度第1回古代東ユーラシア研究センターシンポジウム	2014年	専修大学
7	土生田純之	古墳文化の転換期	明治大学博物館友の会第3回古代史講演会	2015年	明治大学博物館	
8	土生田純之	積石塚古墳と渡来人	積石塚・渡来人研究会	2015年	帝京大文化財研究所	
9	土生田純之	古墳研究の今	長野県文化財保護協会	2016年	長野県立図書館	
10	松原朗	詩聖杜甫 ―その実像を考える―	大東文化大学中国学科秋季講演会	2016年	大東文化大学	
11	松原朗	「杜甫全詩訳注」の刊行 ―聞一多「少陵先生年譜会箋」に及ぶ―	日本聞一多学会2016大会	2016年	二松学舎大学	
12	松原朗	近代以来日本の杜甫研究	李白国際学術研討会	2015年	中国西安市	
13	土屋昌明	黄泉国と道教の洞天思想	日本古事記学会	2015年	専修大学	

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
14	Miwako SHIGA	Human Rights Depending on the Goodwill of the Majority? Prohibition of Forcible Conversion Act and Dalit Struggle at the "Public" Space	FINDAS International Workshop 2014: 'Untouchability' in India and Japan: Labour and Space	2014年	東京外国語大学
15	志賀美和子	ヒンドゥー・ナショナリズムとドラヴィダ・ナショナリズムの相克?—タミル・ナドゥ州政治にみる地域主義政党のジレンマ	アジア政経学会	2014年	京都大学
16	志賀美和子	非バラモン運動からみる現代インドの諸問題—タミル・ナドゥ州を中心に—	龍谷大学現代インド研究センター全体研究集会	2015年	龍谷大学
17	志賀美和子	「不可触民」は何を目指してきたのか? タミル・ナドゥ州における政治社会運動の100年	龍谷大学現代インド研究センター全体研究集会	2015年	龍谷大学
18	志賀美和子	タミル・ナドゥ州政治史 ドラヴィダ政党の過去・現在・未来	インド州政治研究会	2015年	アジア経済研究所
19	志賀美和子	「周縁」からみるインド近現代史 南・非バラモン・不可触民	新しい民衆史研究会	2015年	法政大学
20	志賀美和子	ガンディーは「マハトマー」か 視点で変わる人物評価	大学での歴史学教育を考える会	2016年	大月書店
21	Miwako SHIGA	Social Justice or Economic Development? Election Strategies of the Dravidian Parties	ISEC International Workshop	2016年	ISEC, Bengaluru, India
22	梶原茜・君塚彩香・田中光・南部彩乃・高島裕之	大学生がみた有田・今右衛門窯	江戸遺跡研究会第145回特別例会	2014年	専修大学
23	中島徹也・高島裕之・柴田圭子・新島奈津子	久米島宇江城城跡・具志川城跡出土の貿易陶磁	第35回日本貿易陶磁研究会(沖縄大会)	2014年	沖縄県立埋蔵文化財センター
24	高島裕之	17世紀日本江戸遺跡出土貿易陶磁器的諸問題	文化交流與信仰傳播国際学術研討会	2015年	台湾・国立台南藝術大學
25	西澤美穂子	伊能忠敬の時代の日本の対外関係	専修大学文学部50周年記念企画(環境地理学科)講演会	2016年	専修大学
26	西澤美穂子	歴史学研究会大会近世史部会後藤敦史報告の批判報告	歴史学研究会近世史部会	2016年	東京大学
27	三宅俊彦	インドネシアの出土銭調査	東南アジアにおける出土銭貨の考古学的研究2014年度研究会	2014年	淑徳大学

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
28	三宅俊彦	東亜出土銭幣的考古研究	日本学者従出土文物研究 中国的經濟和軍事歴史	2015年	香港中文大学
29	三宅俊彦	北海道留萌市のコタン浜古銭 をめぐる諸問題	中近世のアイヌ文化の 再構築をめざした学融 合的研究 平成26年度研究会議	2015年	函館工業高等 専門学校
30	三宅俊彦	沿海州出土の銭貨について	中近世のアイヌ文化の 再構築をめざした学融 合的研究 平成27年度研究会議	2016年	函館工業高等 専門学校
31	三宅俊彦	東ユーラシアにおける出土銭 の研究	2016年度東洋史研究会 大会	2016年	京都大学
32	皆川雅樹	大学付属高等学校における汎 用的な歴史教育の実践	史学会シンポジウム	2014年	大阪大学
33	皆川雅樹	アクティブラーニングと歴史 教育—高校日本史の授業実践 を通じて—	日本大学文理学部人文 科学研究所総合研究 シンポジウム	2016年	日本大学
34	伊集院葉子	臣の女：記紀、万葉の宮人たち	美夫君志会	2014年	中京大学
35	伊集院葉子	日本令英訳の試み	明治大学国際学術研究 会シンポジウム：交響 する古代VI	2016年	明治大学
36	多田麻希子	女性戸主考—秦・前漢期を中 心に—	2014年度専修大学歴史 学会大会報告	2014年	専修大学
37	山田兼一郎	禁苑と唐長安城の治安維持 —諸門の出入管理に注目して —	國學院大學 国史学会1月例会	2016年	國學院大學
38	奈良竜一	「日書」とその性格をめぐっ て	歴史学研究会アジア前 近代史部会例会	2014年	歴史学研究会 事務所
39	奈良竜一	秦漢簡牘にみえる「日書」を めぐって	専修大学歴史学会	2015年	専修大学
40	鈴木広樹	古墳時代中期における須恵器 埋納の意義について ～朝鮮半島南部との比較を通 して～	専修史学大会	2015年	専修大学

＜研究成果の公開状況＞(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

＜既に実施しているもの＞

1. 研究成果公開シンポジウム

【平成26年度】

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

■第1回シンポジウム^{*1}

テーマ：「古代東ユーラシア地域と朝鮮・日本」（別紙1左上）

日時：平成26年11月29日（土）13：00～17：00

場所：専修大学神田校舎2号館301号教室

参加者：151名

内容：

<趣旨説明>

飯尾 秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

<講演>

「鮮卑の祖先窟の伝達と突厥の祖先窟の伝承」

片山 章雄（東海大学教授）

「渡来人の東国移配と高麗郡・新羅郡」

荒井 秀規（藤沢市郷土歴史課）

「5世紀後半における東国の渡来人」

土生田 純之（古代東ユーラシア研究センター研究員／専修大学教授）

<討論>

【平成27年度】

■第1回シンポジウム^{*6}

テーマ：「古代東ユーラシアにおける『人流』」（別紙1右上）

日時：平成27年7月18日（土）13：00～18：00

場所：専修大学神田校舎2号館302号教室

参加者：214名

内容：

<趣旨説明>

飯尾 秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

<講演>

「ユーラシアの民族移動と唐の成立ー近年のソグド関係新史料を踏まえてー」

石見 清裕（早稲田大学教授）

「日本列島への馬の導入と馬匹生産の展開ー東日本を中心にー」

堀 哲郎（宮城県栗原市教育委員会）

「古代東ユーラシアの馬文化ーモンゴル・中国・韓国を中心にー」

張 允禎（韓国・慶南大学校教授）

<討論>

■第2回シンポジウム^{*9}

テーマ：「古代東ユーラシアにおける中心と周縁」（別紙1左下）

日時：平成27年11月7日（土）13：00～17：00

場所：専修大学神田校舎2号館302号教室

参加者：195名

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

内 容：

<趣旨説明>

飯尾 秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

<講 演>

「東アジア古代における『中華』と『周縁』についての試論」

川本 芳昭（九州大学教授）

「国際交易と列島の北・南」

田中 史生（関東学院大学教授）

<討 論>

【平成 28 年度】

■第 1 回シンポジウム^{*14}

テーマ：「古代東ユーラシアにおける『人流』と地域社会」（別紙 1 右下）

日 時：平成 28 年 7 月 16 日（土）13：00～18：30

場 所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：204 名

内 容：

<趣旨説明>

飯尾 秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

<講 演>

「新出墓誌とその重要性—大唐西市博物館所蔵墓誌を中心に—」

胡 戟（中国・元陝西師範大学教授）

「唐における高句麗・新羅・百済人の活動とそれに関する史料」

拝 根興（中国・陝西師範大学教授）

「新出墓誌から見る入唐西域人の活動」

栄 新江（中国・北京大学教授）

「古代東アジアにおける政治的流動性と人流」

河内 春人（明治大学・中央大学・立教大学非常勤講師）

<討 論>

■第 2 回シンポジウム^{*16}

テーマ：「東ユーラシアにおける移動と定着」（別紙 2 左上）

日 時：平成 28 年 11 月 19 日（土）13：00～17：30

場 所：専修大学神田校舎 2 号館 301 号教室

参加者：157 名

内 容：

<趣旨説明>

飯尾 秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

<講 演>

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

「日本古代のエミシ移配政策とその展開」

武廣 亮平（日本大学教授）

「中世国際貿易都市『博多』の調査成果」

田上 勇一郎（福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課）

「中世初期日本国周縁部における交流の諸相」

柳原 敏昭（東北大学教授）

<討 論>

2. 刊行物

【平成 26 年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第 1 号^{*5} 平成 27 年 3 月刊行（別紙 2 右上）

【平成 27 年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第 2 号^{*13} 平成 28 年 3 月刊行（別紙 2 左下）

【平成 28 年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第 3 号^{*18} 平成 29 年 3 月刊行（別紙 2 右下）

3. インターネットでの公開

■古代東ユーラシア研究センターホームページ

センター概要・シンポジウム等イベント情報・出張調査報告を随時更新

URL : <http://www.senshu-u.ac.jp/eurasia/>

■専修大学学術機関リポジトリサイト SI-Box

刊行した年報を PDF ファイルにて掲載し広く公開

URL : <http://ir.acc.senshu-u.ac.jp/>

■古代東アジア世界史年表 (β版) ^{*4}

日本・中国・朝鮮半島相互の対外関係に関する事項を史資料から集成し、この典拠となった史資料を参照できるよう併せて収録したデータベースを作成し、上記ホームページで公開している。

URL : <http://www.senshu-u.ac.jp/~off1024/database.html>

<これから実施する予定のもの>

1. シンポジウム

【平成 29 年度】

■第 1 回シンポジウム ^{*20}

テーマ：「古墳時代の渡来人－西と東－」

日 時：平成 29 年 7 月 15 日 13：00～17：30

場 所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

内 容：

<趣旨説明>

飯尾 秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

<講 演>

「日韓交流と渡来人ー古墳時代前期以前ー」

武末 純一（福岡大学教授）

「古墳時代の渡来人ー西日本ー」

亀田 修一（岡山理科大学教授）

「古墳時代の渡来人ー東日本ー」

土生田 純之（古代東ユーラシア研究センター研究員／専修大学教授）

<討 論>

■第2回シンポジウム（※詳細未定）

日 時：平成29年11月（予定）

場 所：専修大学神田校舎2号館302号教室（予定）

【平成30年度】

■シンポジウム（※詳細未定）

本研究の5年間の成果のまとめに関するシンポジウム（予定）

2. 刊行物

【平成29年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第4号 平成30年3月刊行

【平成30年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第5号 平成31年3月刊行

3. インターネットでの公開

【平成29年度】

■「関東地域における渡来系遺跡・遺物」データベース^{*12}の公開

■「古代東ユーラシア来日外国人」データベースの公開

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

14 その他の研究成果等

研究会

【平成26年度】

■第1回研究会

テーマ：「朝鮮半島からの渡来人と日本列島内に形成された渡来人コミュニティの研究」

日時：平成26年12月16日（火）12：20～13：00

場所：専修大学生田校舎6号館 社会知性開発研究センター事務課

内容：

<講演>

「韓国調査をめぐって―百濟地域の墳墓・王宮跡・仏教遺跡」

高久 健二（古代東ユーラシア研究センター研究員／専修大学教授）

<質疑応答>

■第2回研究会

テーマ：「ヴェトナム史研究の動向」

日時：平成27年2月23日（月）13：30～14：30

場所：専修大学生田校舎6号館 社会知性開発研究センター事務課

内容：

<講演>

「日本におけるヴェトナム史研究」

山田 兼一郎（古代東ユーラシア研究センター／リサーチ・アシスタント）

<質疑応答>

【平成27年度】

■第1回研究会^{*8}

テーマ：「古代東ユーラシアにおける馬具」

日時：平成27年7月16日（木）16：30～18：00

場所：専修大学生田校舎9号館 ゼミ95G

内容：

<講演>

「中国・内モンゴルにおける馬具の返遷について」

張 允禎（韓国・慶南大学校教授）

<質疑応答>

■第2回研究会

テーマ：「岡山渡来人関連遺跡研究の動向」

日時：平成28年1月26日（火）13：30～14：40

場所：専修大学生田校舎6号館 社会知性開発研究センター事務課

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

内 容：

<講 演>

「吉備・播磨における渡来系資料の概要」

鈴木 広樹（古代東ユーラシア研究センター／リサーチ・アシスタント）

「瀬戸内海沿岸における古代地域史研究の紹介」

山田 兼一郎（瀬戸内海沿岸における古代地域史研究の紹介）

<質疑応答>

■第3回研究会^{*11}

テーマ：「吉備・播磨の渡来人（1）」

日 時：平成28年2月4日（木）18：00～20：00

場 所：サントピア岡山総社 会議室

内 容：

<講 演>

「古代の吉備－対外交流を中心に－」

亀田 修一（岡山理科大学教授）

<質疑応答>

■第4回研究会^{*11}

テーマ：「吉備・播磨の渡来人（2）」

日 時：平成28年2月5日（金）17：00～19：30

場 所：姫路キャッスルグランヴィリオホテル 会議室

内 容：

<講 演>

「古代国家形成期の王権と地域社会」

古市 晃（神戸大学准教授）

「古代播磨の地域社会構造と倭王権の地域支配－『播磨国風土記』の神話を素材にして－」

坂江 渉（兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター）

<質疑応答>

【平成28年度】

■第1回研究会^{*15}

テーマ：「西安西市出土墓誌を巡って」

日 時：平成28年7月17日（日）13：00～16：30

場 所：専修大学神田校舎7号館782教室

内 容：

<講 演>

「西市博物館蔵墓誌の概要」

胡 戟（中国・元陝西師範大学教授）

「西市博物館蔵墓誌の内容」

栞 根興（中国・陝西師範大学教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

「西市博物館蔵墓誌の活用」
 栄 新江（中国・北京大学教授）

<質疑応答>

■第2回研究会

テーマ：「古代東ユーラシア研究センター研究プロジェクトの意義と展望」

日 時：平成 29 年 1 月 30 日（月）13：00～17：30

場 所：専修大学神田校舎 1 号館ゼミ 52 教室

内 容：

<講 演>

「日本古代史研究と東ユーラシア」
 鈴木 靖民（横浜市歴史博物館館長）

「東ユーラシアにおける諸族の動向」
 窪添 慶文（お茶の水女子大学名誉教授）

「渡来人に関する考古学研究」
 亀田 修一（岡山理科大学教授）

「中国湖南省出土の律令関連簡牘の調査」*17

多田 麻希子（古代東ユーラシア研究センター／ポスト・ドクター）

<質疑応答>

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

該当なし

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	18,607	12,779	5,828				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,380	14,488	5,892				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	19,978	16,870	3,108				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	58,965	44,137	14,828	0	0	0	
総計	58,965	44,137	14,828	0	0	0		

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
社会知性開発研究センター		93m ²	1	24			
社会知性開発研究センター4		29m ²	1	3			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
(研究設備)				h h h h h			
(情報処理関係設備)				h h h h h h h h h			

18 研究費の支出状況（千円）

年度	平成 26 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な使途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	4,030	コピー代等	4,030
光熱水費	0		0
通信運搬費	189	郵送料等	189
印刷製本費	1,246	印刷費等	1,246
旅費交通費	2,064	国内・海外出張等	2,064
賃借料	122	データベース	122
報酬・委託料	126	委託・謝礼費等	126
準備品費	999	OA機器等	999
その他	27	雑費等	27
計	8,803		8,803
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	879 1,569		879 1,569
教育研究経費支出	0		0
計	2,448		2,448
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	3,489		3,489
図書	2,534		2,534
計	6,023		6,023
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	1,333		1,333
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	1,333		1,333

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,018	コピー代等	2,018
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	243	郵送料等	243
印 刷 製 本 費	1,411	印刷費等	1,411
旅 費 交 通 費	2,310	国内・海外出張等	2,310
賃 借 料	399	データベース	399
報 酬 ・ 委 託 料	434	委託・謝礼費等	434
準 備 品 費	0		0
そ の 他	53	雑費等	53
計	6,868		6,868
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,109 3,035		2,109 3,035
教育研究経費支出	0		0
計	5,144		5,144
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	501		501
図 書	534		534
計	1,035		1,035
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	7,333		7,333
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	7,333		7,333

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,031	コピー代等	1,031
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	334	郵送料等	334
印 刷 製 本 費	1,806	印刷費等	1,806
旅 費 交 通 費	2,217	国内・海外出張等	2,217
賃 借 料	367	データベース	367
報 酬 ・ 委 託 料	826	委託・謝礼費等	826
準 備 品 費	198		198
そ の 他	77	雑費等	77
計	6,856		6,856
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	894 3,247		894 3,247
教育研究経費支出	0		0
計	4,141		4,141
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	981		981
計	981		981
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	6,000		6,000
ポスト・ドクター	2,000		2,000
研究支援推進経費			
計	8,000		8,000

＜平成26年度11月29日シンポジウム＞

文部科学省私立大学等協会の研究推進形成支援事業
専修大学 社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター
「古代東ユーラシア世界の人流と韓国・日本」

平成26年度 シンポジウム
**古代東ユーラシア地域と
朝鮮・日本**

日時 平成26年11月29日[土]13:00～17:00(受付12:30～)
場所 専修大学神田校舎 1号棟3階 301教室
定員 300名(聴講無料・中絶希望者の場合は抽選とさせていただきます)

趣旨説明 13:00～13:10 飯尾 秀幸
(古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授)

講演 13:10～13:20 片山 章雄 (早稲田大学教授)
「熊本の祖先遺物の伝達と筑紫の祖先遺物の伝承」

13:20～13:30 荒井 秀規 (福岡大学准教授)
「渡来人の東国夢遊と高麗塚・新羅塚」

13:30～13:40 土生田 純之 (古代東ユーラシア研究センター専任員／専修大学教授)
「5世紀前半における奥羽の渡来人」

13:40～17:00 討 論

司会・進行 高久 健二 (古代東ユーラシア研究センター専任員／専修大学教授)

申し込み受付 1. 申し込み受付期間: 10月26日(水)～11月10日(水) 2. 申し込み受付時間: 10月26日(水)10:00～11月10日(水)18:00 3. 申し込み受付場所: 専修大学神田校舎 1号棟3階 301教室 4. 申し込み受付方法: 専修大学神田校舎 1号棟3階 301教室 5. 申し込み受付窓口: 専修大学神田校舎 1号棟3階 301教室 6. 申し込み受付電話: 03-5263-1147 7. 申し込み受付メール: info@seisaku.ac.jp 8. 申し込み受付URL: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2014/11/29/ 9. 申し込み受付QRコード: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2014/11/29/

専修大学社会知性開発研究センター事務局
〒142-8580 東京都神田区神田3-1-1
メールアドレス: info@seisaku.ac.jp TEL:044-911-1947
主催: 専修大学社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター

＜平成27年度7月18日シンポジウム＞

文部科学省私立大学等協会の研究推進形成支援事業
専修大学 社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター
「古代東ユーラシア世界の人流と韓国・日本」

平成27年度 シンポジウム
**古代東ユーラシアにおける
「人流」**

日時 平成27年7月18日[土]13:00～18:00(受付12:30～)
場所 専修大学神田校舎 3階 302教室
定員 300名(聴講無料・中絶希望者の場合は抽選とさせていただきます)

趣旨説明 13:00～13:10 飯尾 秀幸
(古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授)

講演 13:10～14:10 石見 清裕 (中野大学教授)
「ユーラシアの民族移動と島の成立
—一つのアジア民族史をめぐって—」

14:10～14:20 堀 哲郎 (専修大学准教授)
「日本列島への島の移入と島民生活の展開
—島民の視点から—」

14:20～14:30 張 允禎 (専修大学准教授)
「古代東ユーラシアの島文化
—モンゴル・中国・韓国を中心に—」

14:30～18:00 討 論

司会・進行 高久 健二 (古代東ユーラシア研究センター専任員／専修大学教授)

申し込み受付 1. 申し込み受付期間: 6月24日(水)～7月10日(水) 2. 申し込み受付時間: 6月24日(水)10:00～7月10日(水)18:00 3. 申し込み受付場所: 専修大学神田校舎 3階 302教室 4. 申し込み受付方法: 専修大学神田校舎 3階 302教室 5. 申し込み受付窓口: 専修大学神田校舎 3階 302教室 6. 申し込み受付電話: 03-5263-1147 7. 申し込み受付メール: info@seisaku.ac.jp 8. 申し込み受付URL: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2015/07/18/ 9. 申し込み受付QRコード: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2015/07/18/

専修大学社会知性開発研究センター事務局
〒142-8580 東京都神田区神田3-1-1
メールアドレス: info@seisaku.ac.jp TEL:044-911-1947
主催: 専修大学社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター

＜平成27年度11月7日シンポジウム＞

文部科学省私立大学等協会の研究推進形成支援事業
専修大学 社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター
「古代東ユーラシア世界の人流と韓国・日本」

平成27年度 シンポジウム
**古代東ユーラシアにおける
中心と周縁**

2015年11月7日(土) 13:00-17:00
受付 12:30～

場所: 専修大学神田校舎 3階 302教室
定員: 300名(聴講無料)

趣旨説明 13:00～13:10 飯尾 秀幸
(古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授)

講演 13:10～14:10 川本 芳昭 (筑波大学教授)
「東アジア古代における「中華」と「周縁」についての考察」

14:20～15:20 田中 史生 (関東学院大学教授)
「国境交易と列島の北・南」

15:30～17:00 討 論

司会・進行 高久 健二 (古代東ユーラシア研究センター専任員／専修大学教授)

申し込み受付 1. 申し込み受付期間: 10月26日(水)～11月10日(水) 2. 申し込み受付時間: 10月26日(水)10:00～11月10日(水)18:00 3. 申し込み受付場所: 専修大学神田校舎 3階 302教室 4. 申し込み受付方法: 専修大学神田校舎 3階 302教室 5. 申し込み受付窓口: 専修大学神田校舎 3階 302教室 6. 申し込み受付電話: 03-5263-1147 7. 申し込み受付メール: info@seisaku.ac.jp 8. 申し込み受付URL: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2015/11/07/ 9. 申し込み受付QRコード: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2015/11/07/

専修大学社会知性開発研究センター事務局
〒142-8580 東京都神田区神田3-1-1
メールアドレス: info@seisaku.ac.jp TEL:044-911-1947
主催: 専修大学社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター

＜平成28年度7月16日シンポジウム＞

文部科学省私立大学等協会の研究推進形成支援事業
専修大学 社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター
「古代東ユーラシア世界の人流と韓国・日本」

平成28年度 シンポジウム
**古代東ユーラシアにおける
「人流」と地域社会**

2016年7月16日(土) 13:00-18:30
受付 12:30～

場所: 専修大学神田校舎 2号館 3階 302教室
定員: 300名(聴講無料)

趣旨説明 13:00～13:10 飯尾 秀幸 (古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授)

講演 13:10～14:10 胡 競 (中国・元南西師範大学教授)
「新羅墓とその東渡者: 大隅西臼杵郡新羅墓を中心として」
講師: 胡 競 (中国元南西師範大学教授)

14:10～15:10 梓 根典 (中国・銘南師範大学教授)
「新羅における貨幣・新羅・百濟人の経路とそれに関する史料」
講師: 梓 根典 (中国元南西師範大学教授)

15:30～16:30 柴 新江 (中国・北京大學教授)
「新羅墓から見た入唐西域人の経路」
講師: 柴 新江 (中国元南西師範大学教授)

16:30～17:30 河内 春人 (明治大学・中央大学・立教大学非常勤講師)
「古代東アジアにおける東洋の諸民族と人種」

17:40～18:30 討 論

司会・進行 高久 健二 (古代東ユーラシア研究センター専任員／専修大学教授)

申し込み受付 1. 申し込み受付期間: 6月24日(水)～7月10日(水) 2. 申し込み受付時間: 6月24日(水)10:00～7月10日(水)18:00 3. 申し込み受付場所: 専修大学神田校舎 2号館 3階 302教室 4. 申し込み受付方法: 専修大学神田校舎 2号館 3階 302教室 5. 申し込み受付窓口: 専修大学神田校舎 2号館 3階 302教室 6. 申し込み受付電話: 03-5263-1147 7. 申し込み受付メール: info@seisaku.ac.jp 8. 申し込み受付URL: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2016/07/16/ 9. 申し込み受付QRコード: http://www.seisaku.ac.jp/seisaku/kyougi/2016/07/16/

専修大学社会知性開発研究センター事務局
〒142-8580 東京都神田区神田3-1-1
メールアドレス: info@seisaku.ac.jp TEL:044-911-1947
主催: 専修大学社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター

＜平成28年度11月19日シンポジウム＞

文部科学省 私立大学協会の研究振興支援事業
専修大学社会知性開発研究センター/古代東ユーラシア研究センター
「古代東ユーラシア世界の人流と歴史・日本」

平成28年度 シンポジウム
東ユーラシアにおける移動と定着

2016年11月19日(土) 13:00-17:30
受付 12:30~

■場 所: 専修大学神田校舎 2号館 3階 301教室
■定 員: 300名 (随時無料)

開場時間 13:00~13:10 開場 齊幸 (古代東ユーラシア研究センター代表/専修大学副学長)

開演 13:10~14:10 武蔵 亮平 (日本大学助教授) 「日本古代のエミシヤ移民とその帰国」

14:10~15:10 田上 勇一郎 (京都府立総合文化センター文化財部 縄文文化財課) 「中世前期東洋部 〔新多〕の調査成果」

15:30~16:30 横塚 敏昭 (北北大学教授) 「中世前期日本列島部族における交流の展開」

16:40~17:30 討 論

司会・進行 高久 健二 (古代東ユーラシア研究センター副代表/専修大学助教授)

申込方法 (1) 申込書の提出が必要となります。
1 申込書は、①発行部ユーラシア研究センターへ送付し、②専修大学社会知性開発研究センターへ送付していただく必要があります。③申込書の提出期限は、11月18日(金)17時です。
2 シンポジウムオンライン予約システムへアクセスして申し込みをお願いします。申込書の提出期限は、11月18日(金)17時です。
申込書は、11月18日(金)17時

専修大学社会知性開発研究センター事務局
〒14-8880 専修大学 神田校舎3階301号室 TEL:03-6411-1347
Eメール: info@shusei.ac.jp 申込書ダウンロード: 古代東ユーラシア研究センター

＜古代東ユーラシア研究センター年報1号＞

文部科学省 私立大学協会の研究振興支援事業
専修大学社会知性開発研究センター
古代東ユーラシア研究センター年報
第1号 2015年3月

研究プロジェクトを開始するにあたって
古代東ユーラシア研究センター代表 齋藤 秀幸 ……1

特集 古代東ユーラシア海域と領土・日本
領土の拡大と領土の収束の歴史 片山 幸雄 ……9
異文化(異人)の東西移住と高麗語・新羅語 張宗 季楓 ……19
東西の異文化—高麗語を中心として— 土生田 真之 ……27

論文
領土の拡大と領土の収束—高麗語の時代差と領土の収束を中心に 野 根 誠 ……31
文章による領土の収束と高麗語の領土への展開 土屋 真樹 ……39

調査報告
平成27年度 韓国・三國時代百濟高麗資料調査報告 高久 健二 ……55

編集
専修大学社会知性開発研究センター
SHUSEI UNIVERSITY

＜古代東ユーラシア研究センター年報2号＞

文部科学省 私立大学協会の研究振興支援事業
専修大学社会知性開発研究センター
古代東ユーラシア研究センター年報
第2号 2016年3月

特集 古代東ユーラシアにおける「人種」
ユーラシアの民族移動と領土の収束—近代のユーラシア大陸をめぐって— 石黒 賢吾 ……5
日本列島への縄文文化移入とその展開—東日本を中心として— 藤 佐 郎 ……17
ユリイキの時代 縄文文化—考古学・歴史学を中心に— 張 宗 季楓 ……47
論文: 古代ユーラシアの縄文文化—モンゴル・中国・韓国を中心に— 藤本 成博 ……59
合併特号 ……71

特集 古代東ユーラシアにおける中心と周辺
古代東ユーラシアにおける中心と周辺 齋藤 秀幸 ……85
東ユーラシアにおける「中世」と「縄文」についての試論 川本 秀樹 ……91
縄文文化と縄文の中心— 田中 史生 ……111
合併特号 ……139

論文
中国学者の縄文文化論に関する研究 馬 義雄 ……149
(編田 真樹)

編集
専修大学社会知性開発研究センター

＜古代東ユーラシア研究センター年報3号＞

文部科学省 私立大学協会の研究振興支援事業
専修大学社会知性開発研究センター
古代東ユーラシア研究センター年報
第3号 2017年3月

古代東ユーラシアにおける「人種」と地域社会
西交社土著民族の歴史—三次元考古学研究所調査報告— 清 義 ……5
論文: 西交社土著民族とその歴史—大塚南有博物館調査報告を中心に— 藤本 成博 ……25

从縄文人看朝鮮半島新石器時代東亞系人類 井 根 義典 ……51
論文: 新石器時代朝鮮半島からみた古代東ユーラシアの人種 土屋 真樹 ……63
縄文日本列島—西交社土著民族—及び縄文時代東交社を中心として 張 宗 季楓 ……77
論文: 西交社土著民族から見た東交社土著民族—西交社土著民族を中心として— 田 根 智 ……89
古代東ユーラシアにおける東交社土著民族と人種 野田 孝人 ……105

東ユーラシアにおける移動と定着
古代のエミシヤ移民とその帰国 武蔵 亮平 ……125
中世前期東洋部 〔新多〕の調査成果 田上 勇一郎 ……145
中世前期日本列島部族における交流の展開 横塚 敏昭 ……151
合併特号 ……168

論文
〔藤原良史〕の神話から見る東交社の歴史 飯沢 豊 ……177

調査報告
平成27年度 岡山県・兵庫県東交社土著民族調査報告 多田 泰孝子、山田 第一、奈良 直一、藤本 成博 ……209

編集
専修大学社会知性開発研究センター
SHUSEI UNIVERSITY